
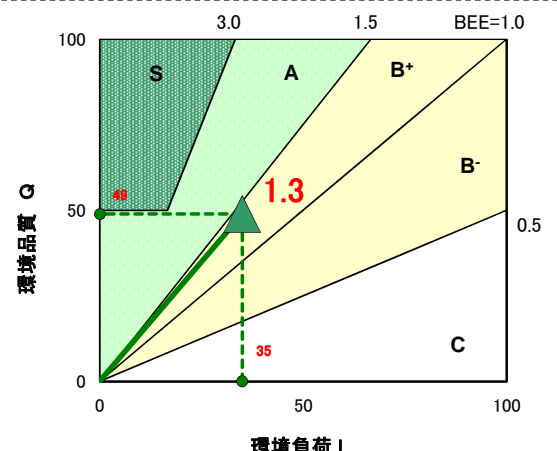




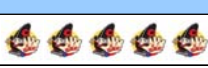




CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)カインズ熊本宇土店	階数	地上1F		
建設地	宇土市三捨町字壺町田216-1他8筆	構造	S造		
用途地域	商業地域、近隣商業地域、準住居地	平均居住人員	100人		
気候区分	6地域	年間使用時間	5,840時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2016年11月1日		
敷地面積	30,534 m ²	作成者			
建築面積	9,965 m ²	確認日			
延床面積	9,963 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			
		BEE = 1.3	
		$\text{BEE (環境効率)} = \frac{\text{Q (環境品質)}}{\text{L (環境負荷)}}$	
ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)		排出率	
		64%	
環境効率評価基準		ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準	
ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値 / Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上 / 50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満 / -
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満 / -
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満 / -
C	★	劣る	0.5未満 / -
		判定値(排出率)	ランク表示
		30%以下	☆☆☆☆☆
		30%超60%以下	☆☆☆☆
		60%超80%以下	☆☆☆
		80%超100%以下	☆☆
		100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点	
		75	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	83.1	熊本県重点評価基準	
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0	100点以上	
【重点事項4】 循環型社会の実現	73.5	80点以上100点未満	
		60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)カインズ熊本宇土店	階数	地上1F
建設地	宇土市三捨町字吉町田216-1他8筆	構造	S造
用途地域	商業地域、近隣商業地域、準住居地域	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,840時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2016年11月1日
敷地面積	30,534 m ²	作成者	
建築面積	9,965 m ²	確認日	
延床面積	9,963 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	64%
③上記+②以外の	64%
④上記+	64%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	2.6
温熱環境	2.8
光・視環境	4.0
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	3.4
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	1.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の熱負荷	2.9
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	2.8
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

地球温暖化への配慮	4.4
地域環境への配慮	3.6
周辺環境への配慮	3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 75**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 83.1	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 62.5
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 73.5

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

天井高を高く、ゆとりのある空間とし、将来の更新性に配慮した。

Q1 室内環境

喫煙室以外は全面禁煙とし、喫煙室は天井裏等を含め他の空間と完全に区画され、常に負圧に保つことにより、室内環境の快適性の向上に努めた。

Q2 サービス性能

耐久性の高い材料を選定し、更新間隔が長くなるよう配慮した。
自家発電設備の設置や、可能な限り配管を区分するなど信頼性に配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

緑地を設けることにより、良好な景観を形成した。

LR1 エネルギー

高効率パッケージエアコン、LEDを採用し、設備システムの高効率化を図った。

LR2 資源・マテリアル

節水機器、節水型便器を採用し、水資源の保護に配慮した。
躯体と仕上材、設備が容易に分別できるよう計画した。

LR3 敷地外環境

光害対策のチェックリストの過半を満たすことにより、光害の抑制に努めた。

その他

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境			0.40		-			3.3
1 音環境		2.6	0.15		-			2.6
1.1 騒音		3.0	0.40		-			
1.2 遮音		3.0	0.40		-			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		2.8	0.35		-			2.8
2.1 室温制御		2.6	0.50		-			
1 室温		3.0	0.50	3.0	-			
2 外皮性能		1.0	0.17	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33		-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		4.0	0.25		-			4.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50		-			
1 昼光率		3.0	-	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-			
1 昼光制御		3.0	-	3.0	-			
3.3 照度		3.0	-	3.0	-			
3.4 照明制御	調光制御装置にて制御可能	5.0	0.50	3.0	-			
4 空気環境		3.7	0.25		-			3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-			
1 化学汚染物質	内装材料のほぼ全面にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30		-			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-			
2 喫煙の制御	喫煙室以外は全面禁煙	5.0	0.50		-			
Q2 サービス性能			0.30		-			3.3
1 機能性		3.4	0.40		-			3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30		-			
1 広さ感・景観	売場の天井高は4.5m	5.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33		-			
3 内装計画		3.0	0.33		-			
1.3 維持管理		4.0	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計	内装に維持管理のしやすい建材を採用	5.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30		-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	コンクリート+塗床:20年、複層仕上塗材:20年	5.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水(VB):B、給湯(SUS):C、雑排水(VP):B	5.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20		-			

2.4 信頼性			2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高5.8m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.05	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.9	0.20	-	-	2.9
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 - 住宅(専有部) -	5.0	0.50	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率機器を採用	5.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型便器を設置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と内部仕上材(LGS下地+石膏ボード)、設備が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率64%	4.4	0.33	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		電気温水器を採用	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

建物名称 (仮称)カインズ熊本宇土店

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				83.1	0.40	33.24
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	2.9	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数